



# とべだより

令和2年9月30日

10月号

横浜市立戸部小学校

## コロナ禍の「とべスポ」

学校長 保科 優子



「とべとべスポーツフェスティバル2020」。一日延期になりましたが、27日(日)に無事に開催することができました。ありがとうございました。

今年度の「とべスポ」は、コロナウイルス感染症対策を踏まえ、昨年度まで、当たり前のように取り組んでいたことを、すべて見直しながら準備をすすめてきました。

一つは、応援団。今年は、大きな声を出し合って応援することができない。今年の「とべスポ」は、応援団ができるのだろうか？ 悩んでいる私のところに、6年生の子どもたちが、「校長先生、お話があります」と来てくれました。「とべスポ」にとって応援団は欠かせないものであることや、「応援」に向けての最高学年としての思いなどを語ってくれました。それほどまでの思いがあるのなら、と「先生たちが今年度の応援団について話し合う場に6年生も参加してほしい」とお願いしました。教員の話し合いの場に参加した6年生の代表児童は、とても緊張したと思います。けれども、教室で話し合ったことをもとに、今年の「コロナだからこそ」の「とべスポ」にかける思いを自分の言葉で語ってくれました。6年生が真剣に考えてくれたからこそ、今年の応援団は成立しました。

一つは、「とべスポ」を迎えるまでの練り上げられたセレモニーの数々。赤白決めの「とべスポ出発式」は、例年と同じ形ではできません。6年生の代表が事前に飛びつき綱引きをしたものを録画し、放送で確認しました。団結式も赤白スローガン発表も、応援団披露も、リレー選手紹介もすべて事前に録画したものを放送し、教室で見ました。みんなが集まれないけれど、集まれないからこそその工夫がたくさん見られました。直前になっての応援練習は、実際に声を出しているのは応援団だけなのに、ものすごい熱気に包まれていました。みんなで集まっての練習はとても少なかったけれど、だからこそ集まったときに心を一つにして、「とべスポ」を盛り上げる。そんな子どもたちの意気込みを感じました。

子どもたちは、たくましいです。コロナ禍で様々な制限がある中でも「とべスポ」に向けて大いに工夫し、例年と変わりなく、もしかしたら例年以上の形でやってのけました。「とべスポ」当日の子どもたちの各競技や演技でのひたむきで一生懸命な姿と輝く笑顔は、準備や練習の段階から子どもたちの思いがしっかりと繋がっていたからこそと改めて思いました。

制限のある中での参観でしたが、温かいご声援とご協力をありがとうございました。

10月は、前期から後期への折り返し点。職員もまた、子どもたちに負けず、一人ひとりを力強く応援していきます。今月もどうぞ、よろしく願います。